

## 胆振農業改良普及センターの普及活動方針（R2年度）

### 1 普及活動方針

胆振管内は北海道の中南部に位置し、気象は積雪が少なく、春の訪れが早く、夏は比較的涼しく、秋は好天の日が多い。気象的には農業生産には恵まれた地域である。

農業構造として、耕地面積は35,000ha前後で推移し、農家戸数は1,785戸(2015)で減少傾向にある。緩やかではあるが農地の流動化も進んでいる。

経営主の平均年齢は60.3歳と高齢化が進んでおり、経営規模は家族経営を中核とし平均19haの複合経営が主体となっている。全道平均より経営規模は小さいものの、家族経営のほか法人・企業経営など多様な基盤が展開されている。

本所区域（登別市から西側の3市3町）は、道内有数の野菜産地で、葉茎菜類を中心に多くの品目が栽培されている。水稲は小ロットではあるが複数の地域ブランドを有し、多様な販路展開が行われている。高級菜豆をはじめとする畑作では、野菜類との輪作体系を基に生産性の維持を図っている。りんご等の果樹では観光農園を軸に特徴ある取組みが行われている。酪農、肉用牛、養鶏、養豚などの畜産は、企業的経営体が多く見られる。

東胆振支所区域（白老町から東側の1市4町）は、水稲を地域の生産基盤とし多様な複合経営が展開されている。畑作は転作田を基盤として、大豆、麦類、てんさいによる輪作体系野菜でもかぼちゃなどは道内有数の作付け規模を誇っている。畜産では粗飼料生産の協業化や、地域ブランド戦略からの高品質肉用牛生産が行われている。外部資本参入経営体による、養鶏や養豚も広く展開している。さらに軽種馬の生産地でもある。

農業・農村を取り巻く環境は、国際貿易交渉の進展に伴い一層のグローバル化に加え、農業従事者の減少や高齢化の進行、異常気象の発生、過疎化による集落機能の低下など様々な課題を抱えている。また、ICTを活用した省力化や高品質化など、スマート農業の実現に向けた課題整理や環境作りが急がれる。さらにはGAPの導入やHACCP手法の推進により、農場経営管理や食品安全性に取り組むことが急務となっている。

平成30年胆振東部地震の傷跡は深く、震災復興には長期に渡る対策が求められており、総合的な経営・技術支援が重点課題となっている。

普及センターでは、平成28年度から「第5期農業・農村振興推進計画」の施策を踏まえ、知恵と工夫で未来を拓く胆振農業の発展を目指して、農業者の意向を汲み地域の優れた潜在力を発揮できる現場重視の提案・実証型の普及活動を展開している。

活動にあたっては、地域がその潜在力を最大限に発揮した個性豊かな取組みを展開できるよう、農業者の意向をふまえて総合振興局や市町村、関係団体などと連携・協働を図る。

### 2 普及活動の基本的な展開

#### (1) 需要に応じた安全・安心な食料の安定供給とこれを支える持続可能な農業の推進

近年、異常気象の発生により生産が不安定となっている。一方では、食の安全・安心への関心が高まっている。農業経営を安定させるため、気象に応じた適期管理、作物・作型の組み合わせによるリスク分散、消費者・需要者のニーズに応じた農畜産物生産、GAP手法の導入、安全・安心への取組み、コスト低減、省力化技術の導入、ICT等の先端技術の活用を進める。

##### ア 稲作経営の安定化への支援

- (ア) 生産構造の再編（協業化や低コスト技術の導入）による経営改善
- (イ) ICTを活用した省力化・効率化技術の導入推進
- (ウ) 高品質・良食味米、クリーン米の安定生産
- (エ) 消費者ニーズをとらえた地域ブランド戦略で評価を高めた稲作産地の確立

#### イ 畑作経営の安定化への支援

- (ア) 団地化など効率的な農用地の利用、農作業受委託組織や協業組織の育成
- (イ) 排水改善対策や有機物施用、適正な土壌管理による生産性の改善
- (ウ) 緑肥導入や抵抗性品種の導入等による土壌病害対策と合理的な輪作体系の確立
- (エ) 直播栽培技術や機械化体系の確立による省力化と安定生産

#### ウ 園芸経営の安定化への支援

- (ア) 生産技術の改善と省力・効率化栽培技術による安定した野菜産地の確立
- (イ) 地域重点品目の安定生産と消費者ニーズに対応した野菜・花き栽培技術の普及
- (ウ) 立地条件に対応した新たな品目・作型の検討と導入
- (エ) 気象に左右されにくい果樹栽培技術の普及と品質向上による果樹経営の安定

#### エ 畜産経営の安定化への支援

- (ア) 生乳中の細菌数、体細胞数低減による乳質の向上
- (イ) 多様な飼料作物の利用による自給飼料の良質化と栄養自給率の向上
- (ウ) 高品質な牛肉や素牛を効率的に生産する肉牛経営の確立
- (エ) 家畜糞尿の適正かつ有効利用による地域資源循環型経営の確立

#### オ 環境と調和した農業の推進

- (ア) 環境保全型農業の普及拡大と有機農業の推進
- (イ) 病害虫・疾病に対する迅速かつ効率的な防疫対策の推進

### (2) 国内外の食市場を取り込む高付加価値農業の推進

管内には道内有数の温泉や観光地があり、特色ある農産物、直売所、観光農園、加工販売など地域資源を活かした高付加価値化の取り組みがある。特色ある農畜産物・加工品のブランド化、農家が行う加工・販売、農商工連携による商品開発、HACCP手法の導入、アグリビジネス振興などの6次産業化と地域に人が来る活気と魅力ある農村づくりを進める。

ア 地域特性を活かした付加価値の高い農畜産物づくりの支援

イ 観光と連携した地域食材の活用、消費者と結びつける取組みへの支援

ウ 自然環境、農村景観など多面的機能を活かした農業生産と農村づくりへの支援

エ 環境保全型農業、有機農業ネットワーク活動、適正な農業生産工程管理の推進

オ 都市と農村の交流等による地域活性化の推進

### (3) 農業・農村を支える多様な担い手の育成・確保

農家戸数の減少や高齢化が進み、地域農業を維持するため、多様な担い手の確保と育成が緊急の課題である。また、青年農業者の生産技術や経営改善能力の向上、女性農業者や高齢者が活躍できる場づくり、家族経営体を支える支援システムづくりが必要である。

ア 新規就農者の確保、就農定着、育成への支援

イ 青年農業者の組織活動と栽培技術・経営管理手法習得の支援

ウ 女性農業者の組織活動と能力を活かした活動への支援

エ 指導農業士・農業士会の活動支援と担い手育成のための連携

オ 地域における農作業支援組織の育成と法人化指向農業者への支援

### (4) 農業生産を支える生産基盤の整備と戦略的な技術の導入

農業生産力強化のために、輪作可能な透排水性の良いほ場づくり、農業機械の作業効率や労働生産性のさらなる向上に向けたほ場の大区画化推進を支援する。また、高齢化

や労働力不足が進む中、農作業の省力化・軽労働化や精密化・情報化などの技術を取り入れたスマート農業の導入を推進する。

ア 農地の透排水性改善による農産物生産性の向上

イ ICTを活用した地域に合うスマート農業の普及推進

ウ 新技術の開発や地域に応じた組み立てを推進するための試験研究機関との連携

エ 農地の計画的な集積による生産性の向上と作業効率の向上

### 3 胆振総合振興局、試験研究機関、地域関係機関との連携

(1) 北海道農業・農村ビジョン21の推進及び総合振興局施策と連動して普及活動を推進する。

(2) 地域農業技術支援会議と連携し、地域課題の解決を図る。

(3) 地域の農業振興計画や農業者との合意に基づき、市町やホクレン・農協等の関係機関と連携を図り、解決方法の合意形成と役割分担により普及活動を展開する。

(4) 協同農業普及事業実施に関する方針並びに協同農業普及事業実施要領に基づき、農業改良普及センターに配置する農業革新支援専門員は、主任普及指導員が担うものとし、その業務に当たっては、農業研究本部技術普及室等、本庁技術普及課と連携しながら対応する。

### 4 普及活動の推進

#### (1) 普及活動の重点化

地域課題の解決においては普及対象を重点化し、重点地域が抱える課題について農業者や関係機関との合意形成に基づき、提案技術の実証による地域課題の解決と、その成果の地域への波及活動を行う。

#### (2) 本所・支所体制と広域班による効果的普及活動

地域課題解決研修や専門部会の活動による横断的な調査研究活動を行い、本所・支所の地域係の情報共有化を図り、活動体制を強化する。地域農業が抱える重要な共通課題の解決を専任業務とする広域班が、地域係と連携して課題解決に取り組む。

#### (3) 普及職員の資質向上と調査研究

農業分野における技術革新や農業者の高度かつ多様なニーズに対応するため、OJT、職場研修、専門部会活動等を充実強化し職員の資質向上を図る。また、普及指導員の実践的支援力向上のための調査研究活動に取り組む。